

友縁結婚した人々

四日市大学 三田泰雅

1. 目的

本報告では、夫婦の出会いのきっかけに注目し、友人の紹介で結婚するのはどのような人々かを明らかにしたい。夫婦の出会い方として、いわゆる見合い婚（アレンジ婚）が減少し、恋愛結婚がそれにとってかわったとされる。このとき恋愛結婚は学歴との関係が指摘されている（筒井 2007）。また、見合い以外の第三者の紹介による結婚のうち、職場の上司などによる「職縁」の結婚は大きく減少した一方で、友人の紹介による「友縁」の結婚は、2000年以降ではもっとも多いとされる（岩澤・三田 2005）。では、友人の紹介で結婚するのは、どのような人々なのだろうか。

2. 方法

本報告で使用するのは「都市生活と家族に関する意識調査」の個票データである。この調査は1993年にニッセイ基礎研究所によって行なわれた第一次調査と、ほぼ同じ設計で実施された2014年に石黒格らによる第二次調査からなる。いずれも満20歳から65歳の既婚男性とその妻を対象としている。第一次調査では各都市620組ずつを抽出し、回収率は山形市の夫婦73.1%、朝霞市の夫婦64.8%であった。第二次調査では各都市800組ずつを抽出し、回収率は山形市の夫48.8%/妻50.8%、朝霞市の夫44.3%/妻47.0%であった。この報告では第一次調査と第二次調査の二つのデータセットを用いた。夫婦の出会い方については「見合い」「紹介」「恋愛」の三者に分類されることが多いが、この調査における出会い方の質問は、「紹介」と「恋愛」に大きく二分される設計となっている。このため、どの関係からの紹介が増えたか、あるいは減ったかという比較が行いやすい。本報告ではこの特徴をいかして「友人の紹介」に注目した分析を行う。

3. 結果と結論

両調査データを比較してみると、①職場や親せきなどの紹介による結婚は43.8%から20.8%に減少した一方で、友人の紹介による結婚（友縁結婚）は13.4%から20.0%へと増加した。②両親の居住地を比較すると、地縁・職縁婚、友縁結婚、恋愛結婚の順に遠くなっていた。③学歴を比較すると、地縁・職縁婚、友縁結婚、恋愛結婚の順に学歴が高くなっていた。恋愛結婚へと切り替わる過程において、県内など中距離にネットワークを蓄積する層を中心に友縁結婚をする人々が分化していった可能性がうかがわれる。

岩澤美帆・三田房美, 2005, 「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展」『日本労働研究雑誌』47(1): 16-28.

筒井淳也, 2008, 「日本における配偶者選択方法の決定要因— JGSS-2006 による分析」『研究論文集 [7] JGSS で見た日本人の意識と行動』: 25-32.